



食味の良い西洋なし「オーロラ」を安定して作るために

とっても美味しい「オーロラ」だが、栽培上の問題が…

- 幼木期の生育が停滞し易く、
成木化が遅い、枯死樹が発生する
- 年によって花芽が少なく
必要な結実数を確保できない



安定生産
が難しい



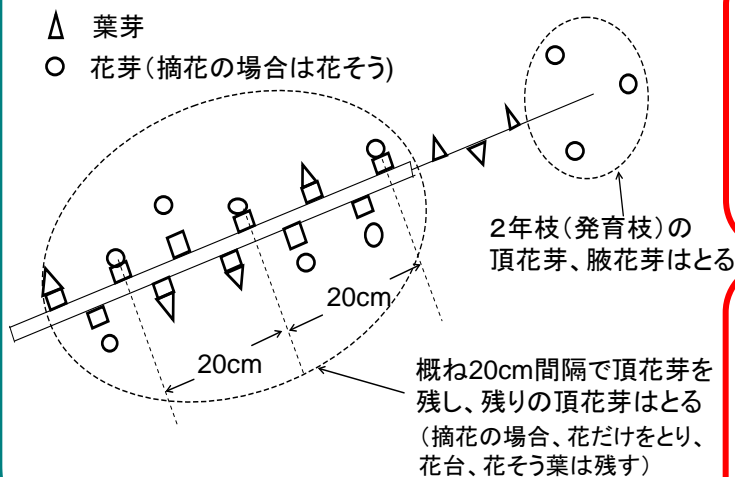
○枯死樹の発生が少なく、幼木期の生育を安定促進する技術

方法	概要	利用場面
本圃接ぎ木法	本圃に台木を定植し、翌年本圃で接ぎ木	新規栽植
大苗ポット育苗法	30cm不織布ポットで2~3年育苗	未結実期間をできるだけ短くしたい場合
高接ぎ法	既存樹の主枝や側枝に接ぎ木	既存園

○花芽の着生を安定させる技術

20cm程度の間隔で花芽を残す摘芽および摘花処理が良い
当年花芽率が40%以上の場合、実施

- △ 葉芽
- 花芽 (摘花の場合は花そう)



20cm間隔摘芽(摘花)のしかた

☆摘芽



花芽



1ヶ月後

☆摘花



花そう



摘花後

場名:北海道立中央農業試験場 作物研究部 果樹科

住所:北海道夕張郡長沼町東6線北15号

電話:0123-89-2001

e-mail: seika@agri.pref.hokkaido.jp